来賓挨拶

ファイザー株式会社　代表取締役社長
梅田　一郎

出損企業であるファイザーを代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

始めに、本日、第22回ヘルスリサーチフォーラムおよび平成27年度研究助成金贈呈式開催にあたりまして、研究成果発表者の方々、午前中のセッションでは座長もお務めいただいた選考委員長の永井良三先生、各セッションの座長の労をお取りいただく先生がた、ご参加いただいた皆さまに、心より感謝の意を表したいと思います。そして、本年度の研究助成を受賞される皆さま、心よりお祝い申し上げるとともに、2年後のフォーラムで研究成果のご発表を聞けることを大変楽しみにしております。

グローバル・ファイザーの企業スローガンは『Working together for a healthier world』…“より健康な世界の実現のために”というもので、ファイザー株式会社のビジョンは『日本で最も信頼され、最も価値あるヘルスケア企業になる』ということであります。

企業スローガンの下でビジョンを達成するためには、ビジネス上の努力はもちろん、それと同様に、社会貢献事業も非常に重要であります。ファイザーではヘルスケア関連団体へのサポート、市民活動団体への助成プログラム、また、社員によるボランティア活動の助成など、さまざまな活動を通じて、本業だけでは解決できないヘルスに関する課題を解決していくことに取り組んでおります。その中で、1992年の設立以来、これまでの財団に対する支援は弊社の社会貢献活動における先駆けとなった、非常に重要な活動であると位置付けております。

先ほどの島谷理事長のご挨拶の中に、ファイザーヘルスリサーチ振興財団のこれまでの助成件数・助成金総額、また今年度の応募件数等のお話がございましたが、財団の事業活動がヘルスリサーチの振興に長きにわたり貢献を続けてきたことの積み重ねと考え、大変嬉しく感じております。

もちろん歴代役員、選考委員の先生がた、また、さまざまな分野でヘルスリサーチに取り組んでおられる研究者の皆さまのご尽力無しにはなし得なかったことであり、その点、大変ありがたく思っております。今後とも財団支援をはじめ、さまざまなプログラムを通じて、継続的な社会貢献活動を実施していきたいと考えております。

さて、ここでファイザー社の業績について、一言ご報告申し上げます。

ここのところファイザーは、主力製品の特許切れのために世界的に大変苦戦しております。売り上げが年々減少する中、経費を厳しく削減し、自己株買いなどを行って1株当たりの利益の確保に努めてまいりました。

今年は、バイオシミラーという、特許の切れたバイオ医薬品のジェネリックに強みを持つホスピーラ社を統合し、つい先ごろは、眼科領域・皮膚科領域・美容領域に強いアラガン社との統合を発表したところです。米国の法人税が高いため法人税の低い所に本社を移そうとの狙いが、メディアに取り沙汰されておりますけれども、決してそれだけが目的でなく、新たな成長を模索する厳しい経営判断があるようです。

日本におけるファイザーの活動には大きな変化はありません。神経障害性疼痛治療薬、心房細動患者さんの脳卒中予防薬、肺炎球菌ワクチン、抗がん剤、抗リウマチ薬、希少疾病治療薬、そしてジェネリックにも力を入れて、特許切れ製品の穴を埋め、今年も何とか頑張っているところです。

製薬企業社員は、医療従事者からだけでなく、あらゆる機会に知り得た自社製品に関する有害事象を適切に行政に報告していかなければなりませんが、今年、会社は自己点検の中で報告遅延を発見し、これを報告し、業務改善命令を受けました。製薬企業としての基本的な義務が果たせていなかったことを厳しく受け止め、改善に取り組んでいるところです。財団関係者の皆さまにも大変ご心配をおかけしました。心よりお詫び申し上げます。

最後に、本日参加された全ての皆さまのますますのご健勝とご研究のさらなる発展を心より祈念して、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

受賞者の皆さま、本日は誠におめでとうございました。